

第17回炉物理部会総会の報告

1. 日 時 2002年3月28日(木) 12:00-13:00
2. 場 所 神戸商船大学コンファレンスホール(F会場)
3. 議 事

(1) 平成14年度運営委員選出(工藤部会長)

竹田部会長、大杉副部会長を初めとする、新年度運営委員候補案が紹介され、新規委員および継続委員ともに賛成多数で承認された。新規に選出された委員は、部会長、副部会長の他、岡嶋庶務幹事(セミナー小委員兼務)、北村財務小委員、奥村編集小委員、石川学術研究交流小委員、異学生・若手小委員の計7名(資料配布)。

(2) 平成13年度決算報告および平成14年度予算案(三澤委員)

平成13年度の決算報告並びに、日韓炉物理国際会議事業費150万円を初めとする平成14年度の部会予算案が提示され、賛成多数にて可決された。また、日韓合同セッションの派遣補助として、35才以下の若手に10万円/人、若手以外の参加者に5万円/人を支給することが提案された(資料配布)。

(3) 2002年夏期セミナーについて(大杉委員)

来る7月29日 31日、茨城県北茨城市の「マウントあかね」で2002年夏期セミナーを開催するべく準備中であるとの報告があった。セミナーのテーマは「Boltzmann方程式ルネッサンス」および「炉物理トピックス」とすること、スケジュールの詳細案について紹介があった(資料配布)。

(4) 日韓協力について(竹田委員)

韓国原子力学会(KNS)の日韓合同セッションの開催日が、数週間前に変更となり、5月23日 24日となったことが報告された(資料配布)。6件の口頭発表の内容紹介、この後に引き続いて日韓協力について10分 20分程度パネルディスカッションを行いたい旨提案があった。また、日韓協力の新しい形として、インターネットを利用した相互情報公開や、専用掲示板の設置などを進めたいとの提案がなされ、方針の大枠について合意された。核データ部会にも諮る必要があるとのコメントが出された(資料配布)。

(5) 企画委員会報告(山根委員)

企画委員の委員改選に当たり、杉山(北大)、森(原研)、池上(サイク

ル機構)の各氏を、また、プログラム編成委員会の新委員として、山本(原燃工)、小原(東工大)の各氏を部会からの候補者として旨提案された。いずれも、賛成多数で可決された。また、部会規定の見直し作業の一貫として、若林氏を中心に原案を目下作成中であるとの報告があった。

次回の9月の学会(いわき明星大学)から、学会申し込みのオンライン化を始め、しばらくはオンラインと従来法の並列で運用する予定である。できるだけオンラインを利用してほしいとの要望があった。

これまで部会単位で行ってきた国際協力に加え、学会全体で国際協力を行うべく、協力のあり方についてディスカッションする場(「日韓オーバービューセッション」)を設ける方針であることが報告された。

研究専門委員会主査、常時委員の兼任の問題については、学会規定に兼任を避けるようにとの記述があり、各自配慮をいただきたいとの要望があった(資料配布)。

(6) 編集委員会報告(山本(敏)委員)

部会から和文誌「特集」として「高温ガス炉の新展開」(主査:東工大・関本氏)を提案したが、編集幹事会で企画案が承認された。幹事会で出された編集方針へのコメントを反映しつつ、現在執筆作業が進行中との報告があった。

「炉物理の研究」第53号については、原稿が揃って最終編集作業に入っており、4月中には配布できる見通しとの報告があった。また、部会報の電子文書化を検討中である。

一部の識者から、炉物理の原子力界への貢献度が低いという認識を持たれている問題について議論がなされた。今後、当部会の貢献度をアピールする方策を検討することになった。

(7) 部会懇親会について(巽委員)

恒例の懇親会を当日6:30より「たつよし会館」で開催することが通知された(資料配布)。

(8) その他

ロシアの核励起レーザー開発における炉物理研究(小原委員)

次回の大会の部会企画として、ロシア・物理エネルギー工学研究所(IPPE)副所長Gulevich博士他1名による標記講演を行いたいという提案があった。

なお、来日に必要な旅費は先方負担になるとのことである（資料配布）。

2002年炉物理部会主催国際セミナーについて（竹田部会長）

本年10月に開催されるPHYSOR2002に参加した人の中から、講師を招いて国際セミナーを開催したい旨の提案があった。本件の検討のためにワーキンググループを結成する（メンバーは岡嶋、三澤、小原、石川の各委員）。

外国人非会員の論文掲載について（小林氏）

学会に寄与する論文については、無料で論文を掲載するような制度を新設するべきであるという意見・要望を学会編集委員会に提出しており、部会からも是非サポートして欲しいとの要望があった。後日、編集委員会の決定を待って再度検討することになった。

4部会合同セッションについて（岩崎氏）

「大強度陽子加速器計画の要望」という題目で、同セッションで発表した際に使用したOHP原稿が配布された。後日、発表した内容は要望書の形でまとめた後、4部会長連名でプロジェクト担当者に提出されるほか、学会誌の特集号として掲載されるので、その旨了解いただきたいとの要望があった。また、資金提供やマンパワーなどについて具体的な実験計画案を作成する必要があり、部会内に検討委員会を設置したい。実験計画案は次回総会に諮りたい（資料配布）。